

図書館だより

HGU Library

library.hgu.jp

vol.232

Spring 2026



「大学での過ごし方」について思うこと
法学部政治学科教授 谷本陽一

図書館活用術

大学図書館情報検索術

大学院生に聞く！ 図書館情報収集術
大学院文学研究科日本文化専攻
博士（後期）課程2年 林香苗

図書館のお仕事 レファレンス業務

「大学での過ごし方」について思うこと

法学部政治学科教授 谷本陽一 たにもと よういち



TANIMOTO Yoichi
早稲田大学大学院法学研究科民事法学専攻博士後期課程満期退学。修士(法学)(早稲田大学)。専門は契約法、債務不履行法、不法行為法。研究テーマは「契約危殆状態における法規範と社会規範の協働」。

正直に白状すると、学生時代は先のことなどろくに考えもせずただぼんやりと生きていたので、今改めて「大学での過ごし方」を問うて論じることが躊躇を覚えています。それはそれとして、話の取っかかりを作っておきましょう。「過ごし方」という時間的に幅のある切り口よりも、卒業時という一時点の状態を扱う「過ごした結果」という切り口の方が扱いやすいので、その観点から、思うところを書かせてください。

大学で過ごした結果は、自分自身に結晶化していきます。そのうちのある面は学期ごとに大学から評価され、通常は4年次に総決算的な評価を受けることとなります。そのとき、卒業要件を充足すれば学位を授与されて大学で過ごす期間が終わり、充足しなければ充足するまで大学で過ごす期間が延長されることとなります。大学は、卒業要件によって、学生が大学で過ごす期間の終点(の1つ)を定めるとともに、学生に対し、大学で修めるべき(＝自身に結晶化させるべき)最低限の品質を提示しています。

それと同時に、大学は、世間に対し、学位の授与によって当該学生にその品質が備わっていることを保証することになります。そうすると、学生は、大学を卒業するためには学修面において一定の結果を実現しなければならず、それゆえに少なくとも卒業要件を充足するように大学で過ごさなければなりません。そして、その学修面をクリアできるのであれば、学修以外の面については自分で考えて自由に成長させる過ごし方を選ぶことができます。自分自身をどのように育成するかは自由であり、その結果の栄光と責任は自分自身で引き受けるというわけです。

そこが気になるのが、卒業要件です。卒業要件には細かく色々ありますが、中核となるというものは、一方で、学生に対し適切な品質の教育と評価を提供できていないことを意味し、他方で、世間に対し学位取得者の品質管理・保証ができていない、場合によっては品質を偽装しているということを意味します。そうならないために、教員は、学生が既定量の学修時間を投下しなければならぬ品質の教育を提供し、それをしていない学生に単位を与えないという義務を遵守しなければなりません。立場上、そんな風には言うしかありません。しかし、そうすると、誰も単位を取得できず卒業できないなんて事態も起こりかねません。むしろ大学設置基準が過剰要求なのではないか、もはや時代にそぐわないのではないかと、正直なところ、思います。

0:00	月	火	水	木	金	土	日	0:00
1:00	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠		1:00
2:00	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠		2:00
3:00	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠		3:00
4:00	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠		4:00
5:00	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠		5:00
6:00	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠		6:00
7:00	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠		7:00
8:00	通学	通学	通学	通学	通学	通学		8:00
9:00	自習・知的財産法 I	自習・民法 V	通学	自習・労働法	自習・民法 II	通学		9:00
10:00	通学	自習・民法 I	民法 V	通学	通学	民法 V		10:00
11:00	知的財産法 I	通学	自習・民法 II	通学	民法 II	労働法		11:00
12:00	通学	通学	通学	通学	通学	通学		12:00
13:00	国際法	民法 II	自習・演習 II	労働法	自習・民法 II	自習・民法 V		13:00
14:00	租税法 I	自習・租税法 I	自習・民法 V	自習・労働法	国際法	自習・民法 V		14:00
15:00	自習・知的財産法 I	自習・租税法 I	自習・民法 V	自習・労働法	自習・民法 II	自習・労働法		15:00
16:00	自習・知的財産法 I	自習・租税法 I	自習・民法 V	自習・労働法	自習・民法 II	自習・労働法		16:00
17:00	自習・知的財産法 I	自習・租税法 I	自習・民法 V	自習・労働法	自習・民法 II	自習・労働法		17:00
18:00	自習・知的財産法 I	自習・租税法 I	自習・民法 V	自習・労働法	自習・民法 II	自習・労働法		18:00
19:00	自習・知的財産法 I	自習・租税法 I	自習・民法 V	自習・労働法	自習・民法 II	自習・労働法		19:00
20:00	帰宅	帰宅	帰宅	帰宅	帰宅	帰宅		20:00
21:00	自習・民法 I	自習・民法 II	自習・民法 V	自習・民法 II	自習・民法 V	自習・労働法		21:00
22:00	自習・民法 I	自習・民法 II	自習・民法 V	自習・民法 II	自習・民法 V	自習・労働法		22:00
23:00	自習・民法 I	自習・民法 II	自習・民法 V	自習・民法 II	自習・民法 V	自習・労働法		23:00
24:00	自習・民法 I	自習・民法 II	自習・民法 V	自習・民法 II	自習・民法 V	自習・労働法		24:00

学修ガイドとモデル時間割に従ったある学生の1週間のスケジュール

り6時間の学修時間を要するという事です。授業時間が1.5時間だから、きちんと授業に参加した場合でも、4.5時間の自学自習が不可欠。もう少しイメージしやすくすると、例えば、第1学期に合計24単位の履修登録をしたとして、きちんと授業に出た場合、週あたりの自学自習の時間は合計54時間になり、日曜日に自学自習をしないとすればそれ以外の日には9時間(＝)の自学自習が必要だということの意味しています(前頁の図表を参照せよ)。

常軌を逸した学修ガイドだと思われるかもしれませんが、これは大学設置基準(昭和31年文部省令28号。日本の法令の1つです)21条2項に定められていることをわかりやすく書き直したものに過ぎず、どの大学でも似たり寄ったりです。北海学園大学も文部科学省ひいては日本国も、最低限128単位×45時間＝5,760時間(各自、所属学部学科の卒業単位数で計算してください)の学修時間を投入した学生に卒業を認めて学位を授与し、それだけの時間を投入しなかった学生には卒業を認めないというわけ

です。卒業生はそんなに勉強していない、という意見が当然予想されるのですが、仰るとおり、まさにそこが問題です。卒業生が勉強していないという事実は皆さんに要求される学修時間を何ら左右するものではありませんが、その意見は大学に突き刺さらなければなりません。必要な学修時間を投下しなかった学生に単位を与え

おすすめの本



『岡本綺堂随筆集』
岡本綺堂 著、千葉俊二 編
(岩波文庫 2007年)

日本語の美しさに惚れ惚れします。



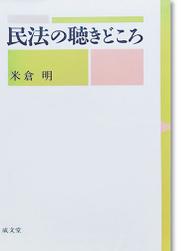
『フセダ三畳青春記』
高野秀行 著
(集英社文庫 2003年)

このような大学生活に憧れていました。



『王妃の離婚』
佐藤賢一 著
(集英社文庫 2002年)

中世フランスでも大学生のあり方は変わらないことが感じられます。裁判小説でもあり、弁護士がとても格好良い。直木賞受賞作。



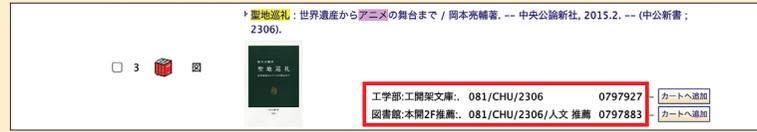
『民法の聴きどころ』
米倉明 著
(成文堂 2003年)

授業や自学自習に臨む姿勢をこの本から学んで欲しいと思っています。

① 『北海学園大学』

図書館で借りることができます。

OPACで配架場所と貸出状況が確認できます。図書館内のOPAC用端末からは、場所が書かれたレシートの印刷が可能です。



② 『国立国会図書館』 (国内で発行された出版物がすべて納本される国会図書館の検索サイト)

「国会図書館」と「他の図書館(主に公共図書館)」の所蔵が確認できます。

気になる資料は「レファレンスカウンター※1」で複写(コピー)や貸借の依頼が出来ます。※2

※1 「探し方・調べもの案内」のカウンター。本館2F・エレベーター前に専用カウンターがあります。

※2 送料・コピー代等は自己負担となります。

オススメです!

③ 『CiNii Research』 (国立情報学研究所が運営するデータベース)

「国内の多様な研究成果(学術論文、研究報告書等)」と「全国の図書館(大学図書館を含む)の所蔵」が確認できます。



「論文」を選択: オープンアクセス(無料で全文公開されている)論文も多く、閲覧先のリンクが掲載されています。

「本」を選択: 本のタイトルをクリックすると全国の図書館の所蔵が確認できます。

論文の全文掲載がない場合や、資料が他の図書館所蔵の場合は、レファレンスカウンターで複写や貸借の依頼が可能です。※

※ 送料・コピー代等は自己負担となります。



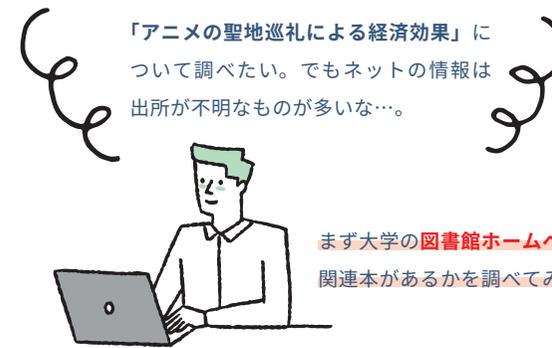
ミニ情報

「道内の」他大学図書館に所蔵があった場合、学生証があれば、直接、その大学図書館を利用することも可能です。一部例外もありますが、詳しくは北海道地区大学図書館協議会ホームページをご確認ください。



HGU Library 大学図書館 情報検索術

図書館といえば、「読みたい本を借りる」「勉強する場所」というイメージがあるかもしれませんが、図書館はそれだけではありません! 知りたいことについて幅広く情報を集めることができる“情報の宝庫”です。ただ、調べ方がわからなければ、その情報にたどり着くのが難しいことも事実…。みなさんが知らない“かも”しれない図書館をつかった情報検索術をお伝えします。



1 「北海学園大学 OPAC」から図書館の蔵書を検索

2 「クイックサーチ」にキーワードを入力

「該当6件」。本はそれほど多くない。
この「横断検索」は何か?



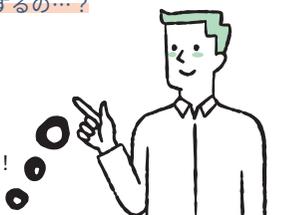
3 「横断検索」を選択

4 検索対象で「全て選択」をクリックし、キーワードを入力

ずいぶんヒットした!
でも、どうやって利用するの…?



次のページから
詳しく解説します!



こちらもおススメ!

④ 『IRDB』 (学術機関のリポジトリに掲載されたコンテンツを収集・提供) 『J-STAGE』 (学術機関が発行するジャーナルや論文を公開) 『オープンアクセスの研究成果 (学術論文、研究報告書等)』が多数掲載されています。 * ここに掲載の論文は、③ CiNii Research にも掲載されています。

⑤ 『Google Scholar』 分野や出版国を問わず、学術的な文献を幅広く検索できます。ただし、以下の注意が必要です。 * 全文検索を行うため、関連性の低い文献が表示される可能性がある。 * 同一論文に複数のバージョンが表示されるため、最新・正規の情報ではない場合がある。参照する場合は、正規のバージョン (学術出版社や学会などが公開しているもの) を利用すること。 * ヒットした情報のすべてが学術的であるとは限らないため、情報源や発信元の確認が必要。

『新聞社のデータベース』 各新聞社のデータベースから関連記事を検索できます。出所のしっかりした最新情報も得ることができます。



② 各データベースのバナーを選択し、記事を検索する これならずいぶん沢山の情報が得られそう。 検索する「キーワード」を変えてみる※のもいいかも。 わからないことや欲しい資料があるときは、レファレンスカウンターに相談に行ってみよう! ※ 具体的な固有名詞、地域などがあればさらに絞り込み可能。ただしキーワードが増えすぎないように注意。

* 学外からデータベースを利用する際は、初回のみ「学外アクセスサービス」の設定が必要です。



① 図書館ホームページの「電子リソース」から「新聞記事を探す」を選択



②

図書館情報収集術

研究のための情報収集・情報活用方法について
大学院生に聞きました!

大学院生に聞く!

氷山の下に広がる世界

大学院文学研究科日本文化専攻博士(後期) 課程2年 林香苗

私の研究テーマは、三浦綾子晩年の大作『銃口』の「生成研究」です。生成研究では、完成された作品のみならず、創作ノートや草稿、夫の三浦光世による日記などの一次資料を精査分析し、作品と照合させることにより、「この物語はどこから来たのか、一次資料からどのように変化し、なぜその最終稿へと生成されたのか」という生成過程の視点から、作品の新たな解釈と現代的価値を説明していきます。

「資料との出会い」をもたらず場が、私にとっての大学図書館なのです。 「作品ならざるもの」が無数に潜んでいる氷山の下には、未知なる世界が広がっています。そして、自分独りでは辿り着けないであろうその世界に繋がる扉を開いてくれるのが、大学図書館でありレファレンス・カウンターです。

この研究で重要なその一次資料は三浦綾子記念文学館に所蔵されており、私は同館の認証研究員として、段ボール箱七箱分、計五四六点に及ぶ『銃口』関係の膨大な資料を三年にわたり調査分析してきました。資料の内容のみならず、書き込みや折り目、付箋、挟み込みの有無など微細な痕跡を、そのような細部まで含めた「確かな資料」に辿り着けるのも、対面



この研究論文が掲載されている「年報 新人文」第21号

図書館のお仕事

前号に続き、図書館のお仕事を紹介します。
今回は、図書での情報収集で心強い助っ人となる
“レファレンス業務”の担当者に聞いてみました。



レファレンス業務スタッフ（図書館歴1年）

——仕事内容を教えてください。
本館2階のサービス・カウンター（本の貸出・返却を行う窓口）の奥側に「レファレンス・カウンター」があるのがご存じでしょうか？そこで「レファレンス業務」を主にを行っています。

利用者の方々は、探している本のタイトルなどが明確な場合はご自身で見つけてしまうことが多いと思うのですが、「釧路の歴史について書かれている本を探している」などの漠然とした状態で図書館を訪れる方もいるのではないのでしょうか？そんな方々をサポートするのが、レファレンス業務です。



レファレンス・カウンター

他にも、「他の大学図書館にあ

る本を読みたい」や「この雑誌に載っている論文の複写（コピー）が欲しい」という場合も、レファレンス・カウンターの出番です。

ご希望の資料を他の図書館へ依頼し、借りることも複写したものを送ってもらうこともできます。

——印象に残っているエピソードを教えてください。
利用者の方から

調査依頼の際に文献探して困った場合も、どんな文献があるかを調査することも可能です。まずはご自身で探していただくことが前提ですが、お困りの際はぜひ活用してみてください。話しかけるのに勇気がいるとは思いますが、いつでもお待ちしております。

——どんなことに気をつけていますか？
調査の依頼があった際は、丁寧に聞き取りをしたいと考えています。最近では、メールでご依頼いただくこともありますが、皆さんが「どのような情報をどれだけ知っているか」を把握することは、我々が調査をするうえでも大切な情報です。カウンターにお越しの際は、お話できる範囲でいいので、質問にお答えいただければ嬉



グループスタディルームからの眺め

しいです。もちろん、メールの場合でもやり取りをさせていただきます。

——図書館のおすすめの場所を教えてください。
別部署の職員だった時、本館2階のワーク・エリアを業務終了後に利用していた時期があります。窓側の席に座ると、北海道のグラウンドが見えるんですね。サッカーはあまり詳しくないので

ですが、高校生が一生懸命取り組み姿を眺めていると、「自分もボケっとしてないで、やることやらないとな」という気分にならせてくれるので、平凡だけれどおすすめ場所かもしれません。ワーク・エリアだけでなく、サイレント・エリアやアクティブ・エリア（席数は限られますが、グループスタディールームからの眺めが最高！）からも眺められるので、それぞれ用途に合わせて、是非利用してみてください。

ただ……これは図書館職員になってから分かったのですが、土曜日でサッカーの大会が行われていると、ちょっと賑やかなのでご注意ください。